

災害時多言語情報センター運営訓練を実施しました

当協会は、大規模災害時に県国際課と連携して「災害時多言語情報センター」を設置し、外国人支援を行うことになっています。そこで、ボランティアの方を対象とした通訳・翻訳訓練を実施し、17名に参加していただきました。

■日時:平成28年2月25日(木) 13:30~16:30

■会場:埼玉県浦和合同庁舎5階 第5会議室

■参加者:ボランティア17名

【内訳】・通訳・翻訳ボランティア 13名(英語9名、中国語4名)

・日本語支援ボランティア、相談センタースタッフ等 4名(やさしい日本語)

■内容:

時間	内容
13:30-13:45	災害時多言語情報センターの説明
13:45-14:15	電話通訳訓練①(仲介通訳について説明し)
14:15-15:00	電話通訳訓練②(YOKEと連携し、実際に仲介通訳)
15:00-16:30	やさしい日本語及び多言語翻訳訓練

(1)13:30~13:45 災害時多言語情報センターの説明

災害時多言語情報センターの目的や支援内容について、協会から説明しました。

(2)13:45~15:00 電話通訳訓練

訓練は、災害時に横浜市国際交流協会(YOKE)に外国人相談者から電話がかかってくる、YOKEでは対応ができない言語なのでトリオフオンで埼玉に回すという想定で行われました。こちらでは、相談者とYOKEとの会話を、電話を使って通訳しました。

最初に、外部からかかってきた電話を仲介通訳する見本を見せ、「通訳が交通整理をしながら会話を進める」ことの説明をしました。次に、参加者の中から3名(英語2名、中国語1名)に、電話での仲介通訳を体験してもらいました。

通訳者は、相談員と外国人の間で「では、そこまで訳します」「相談者に伝えました」など説明しながら通訳し、日本語で言う必要がある単語(施設の名前など)は日本語の読み方も伝えるなど工夫をしていました。

<通訳の内容(YOKEが東日本大震災で受けた相談)>

1件目(英語): マンションが危険だと言われたので避難所に来たが、プライバシーがなく、不安だ。子供のおむつも足りない。誰に言えばいいのか。

2件名(中国語): 大きな余震があって不安。家にも電気が付かないし、水も出ない。同じ国の人たちが集まっているところがあれば、そこに逃げたい。

3件名(英語): 地震が起きてから、家の近くを広報車が回ってくるようになったが、何を言っているのか分からない。

(3) 15:00~16:30 やさしい日本語及び多言語翻訳訓練

参加者にA~Dの4グループに分かれていただき、それぞれのグループが本日集まったボランティア全員だという想定で、方針などを話し合いながら翻訳を体験しました。

最初に「避難所」の訳について考え、直訳だと「母国の避難所(国によって体制が違う)」と混同する危険があることや、やさしい日本語にしてから翻訳する方法などについて説明した後、実際に昨年常総市の水害の際に翻訳依頼があった文章を翻訳しました。



最後に、グループごとに、事前に話し合ったことや、翻訳する際に気をつけたことなどを発表しました。事前にどうしたら外国人に情報が伝わるかを話し合ったこともあり、全てのグループが、最初にやさしい日本語で要点をまとめたあと、その文章を多言語化していました。また、英語は英語ネイティブではない人を考慮して「やさしい英語」にしたり、日本語表記に絵を加えたりと、それぞれ工夫した内容となっていました。

参加してくださった皆様、ありがとうございました！

